

An aerial photograph of a village nestled in a valley. In the foreground, there are large, rectangular green rice fields. The middle ground shows a cluster of houses with grey and blue roofs. The background is filled with dense green forest and mountains. A river or stream is visible on the left side of the image.

平成30年度 夢づくり地域交付金
ステップアップ事業

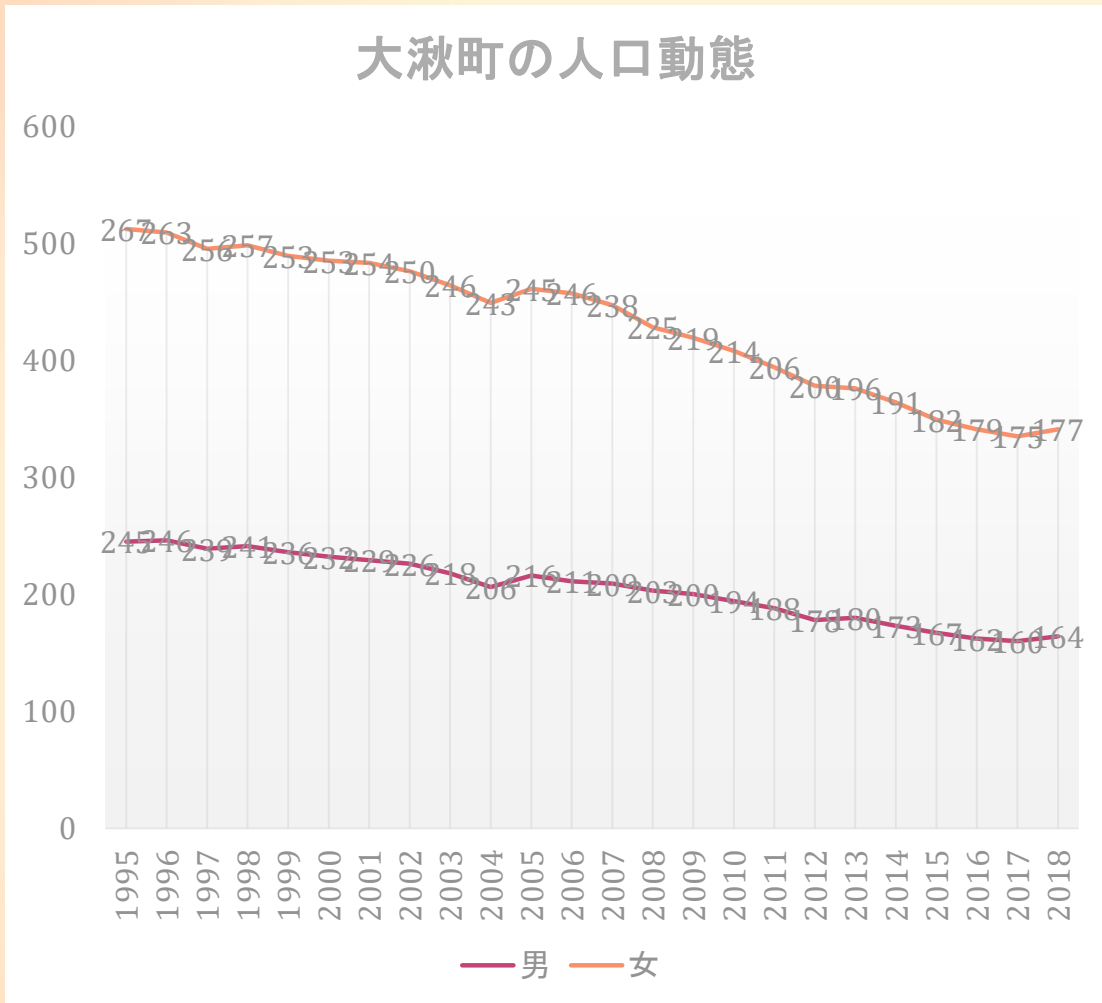
～大湫宿古民家再生活活用事業～

大湫町コミュニティ推進協議会

夢づくり地域交付金(ステップアップ事業) プレゼンテーション

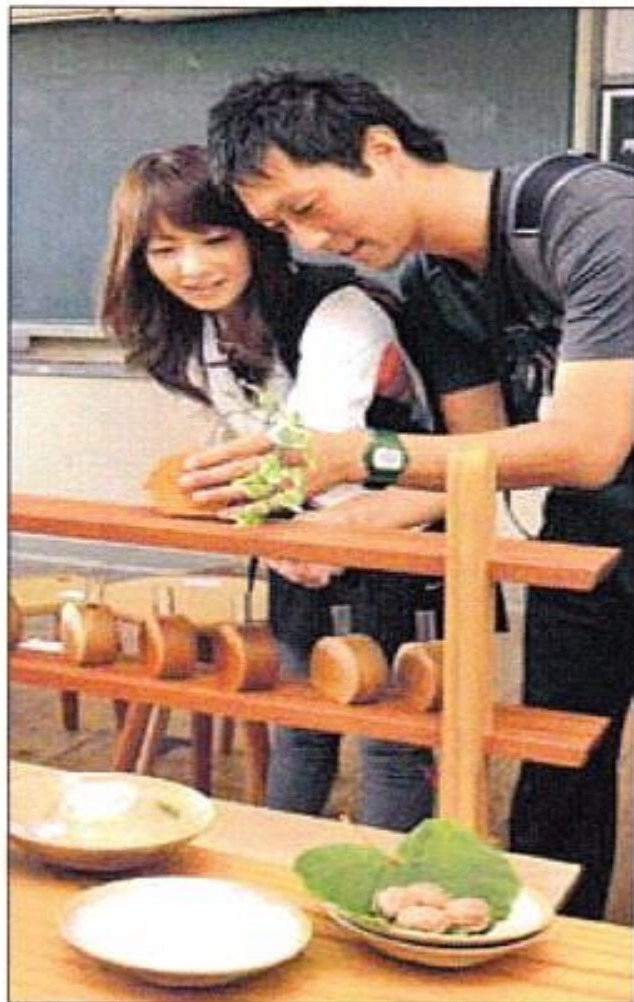
- 1. 大湫町の今日的課題
- 2. 第6次総合計画で目指してきたもの
- 3. 最近の地域における課題解決へ向けた取り組み
- 4. 現時点での到達点
- 5. 更なる課題解消へ向けた取り組みとしての「ステップアップ事業」
- 6. 旧小木曾邸(米屋)の経過と大湫宿における位置
- 7. 活用事業者の紹介
- 8. ハードとしての米屋の整備
- 9. ソフトとしての米屋の機能
- 10. 今後の事業展開

- 1. 大湫町の今日的課題



・ 2. 第6次総合計画で目指してきたもの

課題解決のための提案



集え若者「ものづくりの里大湫」

【目的】 少子高齢化とともに人口が減少し地域を担うべきマンパワーが不足してきた現状を打破するため、様々なジャンルの若手芸術家を積極的に誘致し、個性と魅力のあるまちづくりを進める。

【取組】 ① 情報発信する

宿場町の古民家・旧小学校校舎・花の森の野外空間等を活用し、内外の芸術家による企画作品展を継続的に開催し、情報を発信する。行政機関にも公的窓口を設け、Iターン・Uターン希望者等について、全国からの情報の収集と発信を行う。

② 調査・斡旋する

コミュニティ推進協議会に地元窓口を設け、転入希望者に、貸付や売却等が可能な物件の調査・斡旋を行う。

③ 交流する

地元に着した芸術家は、常設・臨時を含め交流の場づくりに努める。

- 3-1. 最近の地域における課題解決へ向けた取り組み



転入対策委員会

- 3-2. 最近の地域における課題解決へ向けた取り組み



景観協議会

- 3-3. 最近の地域における課題解決へ向けた取り組み



オオクテ・ツクルテ

• 4. 現時点での到達点

- 最近の転入実績(平成24年～30年)
- 平成24年転入A氏(30代夫婦—陶芸家)
- 平成25年転入B氏(20代夫婦子供4歳—陶芸家)
- 平成26年転入C氏(20代夫婦子供0歳—陶芸家)
- 平成27年転入D氏(20代独身三重県へ転出—陶芸家)
- 平成28年転入E氏(60代夫婦—自然石アート)
- 平成28年転入F氏(40代夫婦—喫茶店経営)
- 平成29年転入G氏(40代独身—会社員)
- 平成29年転入H氏(40代夫婦—子供5歳・3歳—陶芸家)
- 平成30年転入I氏(20代独身—陶芸家)
- 平成30年転入J氏(40代夫婦子供5歳・0歳—設計士)
- 平成30年転入K氏(30代夫婦子供3歳—農業)
- 平成30年転入L氏(30代夫婦子供6歳・4歳・2歳—会社員)
- 平成30年転入M氏(60代夫婦子供30代—彫刻家)



参観者1万人を迎えた「丸森邸」



多くのボランティアが集った「西森邸」

- 5. 更なる課題解消へ向けた取り組みとしての「ステップアップ事業」

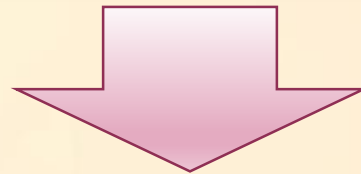
大湫町における主たる課題

空家の解消

転入者の更なる受け入れ

若手芸術家の集いの場

空間のリデザイン



「大湫宿古民家再生事業」をステップアップ事業

として実践し、課題解消を目指す

- 6-1. 旧小木曾邸(米屋)の経過と大湫宿における位置



宿場の中心部にある古民家「米屋」

- 6-2. 旧小木曾邸(米屋)の経過と大湫宿における位置



越し屋根

- 6-3. 旧小木曾邸(米屋)の経過と大湫宿における位置



- 6-4. 旧小木曾邸(米屋)の経過と大湫宿における位置



囲炉裏

- 7. 活用事業者の紹介



「米屋」活用事業者 田村夫妻



実践事例:整備前の民家の前庭風景

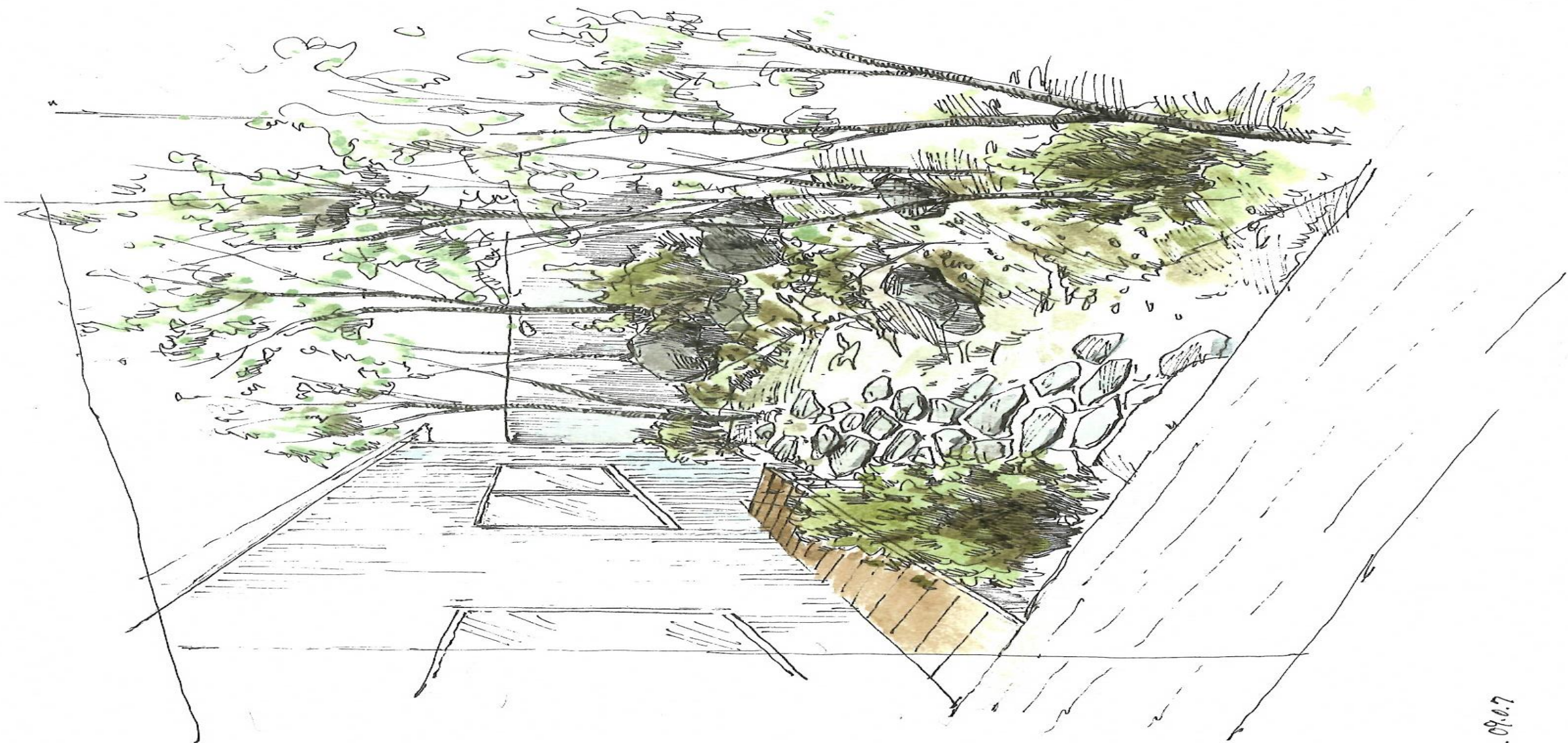


実践事例:整備前のイメージパース



実践事例:整備後の民家の庭園風景

- 8. ハードとしての米屋の整備



「米屋」中庭整備のイメージパース

- 9. ソフトとしての米屋の機能

活用事業者並びにコミュニティ推進協議会と連携
「米屋」等、設備の整った古民家等から順次

- ・若い芸術家の交流の場
- ・アーティストの情報発信の場
- ・転入を希望する若い芸術家のお試し住宅 など

大湫町のリデザインにつながる基地として、
多くの人々の参加を受け入れながら活用

- 10. 今後の事業展開

1 ハード

- ①町内外のボランティアの参加を募り、
家財の整理や内外の清掃活動を実施
- ②活用事業者との協議のもと、屋根の修理を発注
- ③内装・庭園に関わる「古民家再生塾」の開催を企画実践
⇒機能を果たせる施設の整備

2 ソフト

- ①施設整備の進捗情報の発信／
アーティストフリーペーパーの発行に着手
- ②地元芸術家の連携組織を立ち上げ
- ③運営が軌道に乗り次第、アーティストインレジデンスや交流会の開催
- ④庭園設計・地域のリデザインなど、活動の幅を拡大
⇒持続性のある美しい大湫づくり

～大湫宿古民家再生活用事業～

夢づくり地域交付金(ステップアップ事業)プレゼンテーション

完

(写真：古民家再生塾イメージ)

大湫町コミュニティ推進協議会